

JFA 「style-arena」 Report 2013 AUTUMN

www.style-arena.jp



JFA 「style-arena」 Report 2013 AUTUMN

www.style-arena.jp

目次

(1) 地域別ファッションの特徴（原宿 渋谷 表参道 代官山 銀座）	-----	3
(2) 原宿 秋の総括	-----	4
(3) 渋谷 秋の総括	-----	5
(4) 表参道 秋の総括	-----	6
(5) 代官山 秋の総括	-----	7
(6) 銀座 秋の総括	-----	8
(7) 2013 AUTUMN Trend Rankings	-----	9

地域別ファッションの特徴

東京のストリートファッションを観察し、発信しているwebサイト「style arena.jp」。原宿、渋谷、表参道、代官山、銀座という、テイストが異なった5つのエリアのストリートスタイルを掲載し、リアルなファッションの動き、流れを伝えている。

現在は以前とは違い、地域別ファッションの特異性というものは薄まりつつある。それはどの地域に足を運んでも同じようなブランド物を購入できるようになったり、ファストファッションがここ数年で台頭してきて皆それに依存している点などが挙げられる。しかし、それでもまだ地域毎に根付いているファッションスタイルがあって“違い”を感じる事ができるのも事実。それをこのレポートで伝えていきたいと思う。

原宿 HARAJUKU

原宿は、世界的にも独特なスタイルで有名。ファッションバランスや感覚に優れた若者が多く、モード、カジュアル、トラッドなどを融合した、よい意味でセオリーを無視したスタイルを生み出している。

また、原宿は東京で一番古着屋が集まっている街。ほとんどの人が古着を取り入れたスタイルをして個性的なファッションが見られる。これからどんな新しいスタイルが生まれるのか、とても楽しみな街だ。



渋谷 SHIBUYA

流行の移り変わりが最も激しい街。流行のブランドに集中した結果、似たようなファッションスタイルをよく見る事が多い。それは109系ブランドにファストファッションブランドを組み合わせて着る人がほとんどだからだ。

“流行はあるが個性がない”のが渋谷。しかし常に新しい物を求め、敏感に探し、纏っているのが渋谷だ。この街を見れば、日本の女性の“今”が分かるのかもしれない。



表参道 OMOTESANDO

ハイブランドの路面店が並ぶ表参道では、集う人々のスタイルは特に洗練されている。基本はモノトーンを基調にしたスマートでモードなファッションで、小物使いがうまいのも特徴。アクセサリ、時計や鞆など、コーディネートプラスαになる物を、スタイルのテイストや自分のキャラクターに合うように上手に取り入れている。無駄な物は付けず、コーディネートに足し引きの感覚が優れていると感じる。

高級な物もそうでない物も、等身大で飾らずにスタイリングできるセンスを持ったエリアだ。



代官山 DAIKANYAMA

代官山は、5地点の中でもファッションが地域に密着しているという特徴があるように感じる。雑貨屋や古着屋で買った、ノーブランドなどの「匿名性」の高い服や小物を身につけている人が多い。スタイルアンケートでも「親からもらった」などと答える人も多く、ファッションが親から子へと受け継がれていることが伺える。これが、クラシックで落ち着いた雰囲気を作り上げているのだろう。

また、人と同じファッションを嫌う人が多く、流行に流されにくい。特定のショップやブランドにも強い拘りを持たず様々なショップをまわって同じブランドが重ならない。原宿とは違う個性がある魅力ある街だ。



銀座 GINZA

銀座は、他の地点とは大きく異なり、全体的には年齢層が若干高めで、上品で落ち着いた雰囲気を持った人が多い。ラグジュアリーブランドのバッグや時計を身につけている人も多いが、それでも全身を高級品で固めている人は少ない。ファストファッションのブランドをMIXして決して嫌らしくならず、ラフさと高級さを同居したスタイルに仕上げている。

しかし、ファストファッションがここ数年に台頭してきた事で、銀座の特徴の一つでもある「セレブ感」ある人達が目立たなくなってきた。



HARAJUKU

「リュック」に夢中な事情

原宿では以前のクラッチバッグブームとは打って変わって、「リュック」を背負う女子が増加した。他の街ではまだクラッチ人気は継続しているが、原宿ではもう次のトレンドに向かっていて、この切り替えのスピードや最先端を突っ走るのが、この街の長所だろう。

さて、リュックの魅力だが一番は背負った時の独特な“クタリ感”。原宿は古着をベースにカジュアルで“着崩す”スタイリングをする若者がほとんど。そういったスタイルには同じく“崩して”着用できるリュックが抜群に合うのだ。以前の原宿でのクラッチバッグブームは例えて言うなら一種の「浮気」のようなもので、現在は「元サヤ」のリュックに戻って復活愛を楽しんでいる、と言ったところだろう。

現在のリュックで一番人気の物はスウェーデン発のアウトドアブランド「FJALLRAVEN(フェールラーベン)」のリュックの「カンケンバッグ」。写真で言うところ下の四角いリュックだが、国内では「オープニングセレモニー」で取り扱われたのをきっかけに、人気が広まった。カンケンバッグの特徴である可愛いフォックスロゴも原宿女子のハートをがっしりと掴んでいるようだ。



秋はハイテクスニーカー

2013年の秋の原宿は「ハイテクスニーカー」のブームが当たった時期。覚えているだろうか？約15年前に大ブームを巻き起こしたナイキのエアマックスを。当時の不良たちが、履いている若者からエアマックスを脱がせ奪う「エアマックス狩り」なるものが頻発する程、ハイテクスニーカーは人気に火がいた。

ただ、今回は写真のような「リーボック」の不朽の名作、“ポンプ・フューリー”というモデルに注目が集まっている。派手なカラーリング、奇抜なデザイン、ボリュームのあるフォルムが特徴で、服装がシンプルになったストリートファッションではいいアクセントとなって新鮮に映る。

また、近年ではローテクスニーカーと言われるコンバース、アディダス、バンズなどの昔からの定番として出ている物がストリートファッションでは主流だったが、それに飽きたファッションistaが“反動”で取り入れたとも感じる。

ナイキのエアマックスとともに「90年代に興ったハイテクスニーカーブームの立役者」で人気を二分したリーボック、今後は1人勝ちになるか注目。



SHIBUYA



ハイウエスト最盛期 足長ギャルが渋谷を席卷

渋谷ではもはや定番となったハイウエストアイテム。この傾向は夏から継続していて、秋も不動のファッションスタイルとなった。スカートやパンツのウエスト位置が尋常じゃないぐらい、上にきているのが写真を見ても分かるだろう。ハイウエストの上に“超”がつくほどだ。

だが、このスタイルがトレンドになったのはここ最近で、それまでは「ローライズ」などと呼ぶ、腰骨に引っかけてはくような、ウエストの位置が低いスカートやパンツが主流だった。それから2013年春夏コレクションでハイウエストを発表し、雑誌などのメディアが誇大に提唱して一般に広まったのだ。

改めてハイウエストの長所を言うと、着やせ効果、足長効果、カジュアルな物を合わせても子供っぽくならないところ。トップスはおへそが見えそうなミニ丈の物、シャツやカットソーだったらタックインして、それらにアウターを羽織るとというのが秋冬ハイウエストとの合わせ方だ。

もっとも、このスタイル、40代以上から見たら懐かしいと感じることもあるだろう。1980～90年代、ボトムの一一般的なウエストの位置がハイウエストだったからだ。当時の頃を知らない若い世代にとっては新鮮に映るスタイルなんだろう。



OMOTESANDO



コンビ解消はまだまだ先!? クラッチバッグと相思相愛

1年前までは個人的にクラッチバッグブームは去って、違うトレンドのバッグが誕生すると思っていた。現に原宿ではイットバッグとしてリュックが新しいトレンドになっているが、表参道ではブームが継続し、コンビ解消はまだ先のような。

クラッチバッグはエレガントさを出せて、必要最低限のものだけを収めるという機能性や知性を兼ね備えたバッグ。表参道のスマートでモードな装いとベストマッチするから手放せない理由も分かる。手や脇に抱えている女性の姿も実にキレイだ。

また、この秋冬は持ち方として、更に進化を遂げた年といっていだらう。トレンドが長引くとシルエツが多様化していくのが常識。むしろ大事なのは「持ち方」で、現在はバリエーションも豊富。柔らかいクラッチは底部を“クシャッ”と持ち手で握るようにつかむ無造作な持ち方が、クラッチバッグを使いこなしている感を演出することができる。

現在のクラッチバッグは再ブームとして登場した2012年の頃と比べると、デザインも徐々に進化を遂げ、派生版も出たりして多様化した。今年はどんな物が登場し、表参道のハイファッションスタイルとコラボしていくのか今から楽しみだ。



紙袋バッグで ラフさをちょい足し

クラッチバッグブームもさることながら、ラフさをプラスできる紙袋バッグとなる物も昨年辺りから見かけるようになった。高いブランド品は防水加工してるようだが、それでも雨の日は持つのを躊躇するだろう。

一の写真は「JIL SANDER」というハイブランドの物だが金額は約30,000円する代物。



DAIKANYAMA

大人のキレイ目カジュアル 鍵を握るのはスニーカー

夏が過ぎ、秋になるとジャケットやニット、カーディガンなどが活躍する時期になり、代官山の装いも「カジュアル」から「キレイ目」路線にシフトしていった。しかし、表参道のようにドレスシューズやクラッチバッグを合わせたキメキメのファッションとは一味違う。代官山を訪れる人達はバッグやシューズに“力”を抜いた“アイテム”を投入し、それらが浮かないようにうまく溶け込ませ、緩急を利かしたコーディネートをしている。年齢が他の地域と比べると若干高めなこともあると思うが、どこかリラックスした余裕のあるファッションを好むのだ。

そういったファッションをする為に、1番ポイントとなるアイテムはスニーカーだろう。「お洒落は足元から」と昔から言われるのは、なにも革靴ばかりの領域ではない。スニーカーだって、大人の遊び心を表現する重要な鍵となるアイテムなのだ。

ドレスシューズがマストアイテムだった30代から40代の人達も、ここ最近は一様に軽快なスニーカーへとシフトしている。そんなオヤジ達がかぞってスニーカーをチョイスする理由はその絶妙な“抜け感”と“ハズシ感”だろう。キレイ目スタイルに敢えて合わせることで、より上級者なスタイルへと変貌できるのだ。

また、これらのランニングシューズが人気なもう一つの理由は、スリムなパンツやスカートがトレンドとなっていることが大きい。ボリューム感がそれほどないランニングシューズは、スリムなボトムとの相性抜群なのだ。合わせ方を間違えると学生っぽく見えてしまいがちだし、スタイルが悪く見えてしまうデメリットもある。だが、うまく取り入れると代官山ファッションのように“大人キレイ目カジュアル”に仕上げられる魔法のアイテムと言ってもいいだろう。



GINZA



CHANEL

LOUIS VUITTON

BURBERRY

Chloe

バッグは基本ラグジュアリー ～CELINEが人気の理由～

2013年、秋の銀座は特にトレンドが見つからないので、原宿、表参道と同様にバッグについて注目してみた。銀座の装いは高級感があって上品なのが特徴。特にバッグにはお金を掛けている人が他の街よりも圧倒的に多い。いわゆるラグジュアリーブランドといった贅沢な高級品のバッグだ。服装はある程度ごまかしはきくが、バッグは“ラグ”っているか、傍目から即座に判断できる為、そこに関しては力を抜かないのが銀座なのだ。

そこで、“ラグ”っているブランドはどんなブランドがあるのか、疑問に思う方もいると思うが、なんと「世界ラグジュアリー協会」という組織が世界で最も価値が高いラグジュアリーブランドを選定していた。ここでファッション部門のTOP10をご紹介します。

1位から「Hermes」、「Chanel」、「Louis Vuitton」、「Christian Dior」、「Ferragamo」、「Versace」、「Prada」、「Fendi」、「Giorgio Armani」、「Ermenegildo Zegna」、

確かに納得のいくランキングで、これらのブランドは銀座でもよく見かける。ただこのランキングには入っていないが、近年、人気急上昇の“ラグ”っているバッグがある。それがフランスを代表するブランド「CELINE」のバッグだ。クラシカルで気品あるデザインでHermesのパーキンに似た使い方ができるのが人気の理由だろう。

頻りに目をするようになったのは2011年から2012年で、各国のコレクションの会場に登場しているモデルやファッションista達がこぞってCELINEのバッグをもったのがブームのきっかけ。現在は銀座だけでなく、様々な街で見かけるようになり、CELINEは間違いなくイットバッグに躍り出た、出世頭のブランドだろう。8



CELINE

2013 AUTUMN Trend Rankings The Best 5

2013夏のストリートファッションにも多くのトレンドアイテムが誕生した。個人的には「ネオンカラー」が実際に流行るのか注目していたが、結果は騒がれたほど浸透していなかった。

メディアとストリートファッションに温度差があってネオンカラーは今回あまり流行らなかったが、その代わりにリアルトレンドが生まれたのも事実。それをこのレポートで伝えていきたい。

スタイルアリーナ独自のリサーチで印象に残ったトレンドをランキングにして作成したのでぜひご覧を。

1位

スウェットトップス

秋冬トップスといったら「ニット」が常識だったが、2013年は「スウェット」トップスが新定番となった。

コーディネートに心地よい抜け感 を出せるのが人気の理由

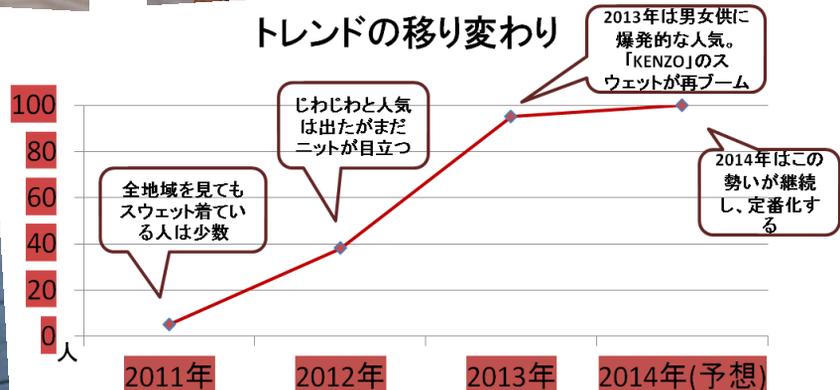
“決めすぎない”アイテム代表がこのスウェット。男女共に人気を博したアイテムとなっているが、この流れは国内だけではなく、世界的な流れとなっている。

スウェットのトレンドを牽引しているブランドは「KENZO」

1990年代にも一時代を築き、爆発的なブームを作った。当時を知る人達はあのKENZOのトレーナーがまさか再ブームになるなんて思ってもみなかっただろう。人気がありすぎて“KENZO風”の偽物も出回っている。



トレンドの移り変わり



※グラフの人数はスタイルアリーナの撮影で着用していた人数を調べて算出したもの。

ペンシルスカートとは鉛筆のようにほっそりとしたシルエットのスカートで、女性のボディラインを強調できるのが特徴。上品さと膝丈までの長さが新鮮で、どのトップスとも相性がいいのが人気の理由。

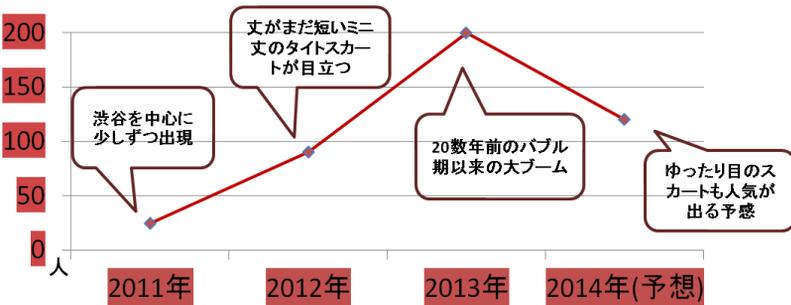


2位

ペンシルスカート

2013年レディースで最も流行ったボトムスは何だったろうか...と振り返ってみると、やはり「ペンシルスカート」に他ならない。前回のレポートでは6位にランキングしたが、秋冬はそれを凌ぐ人気と着用率。様々な地域で大本命アイテムとして注目が高かった。

トレンドの移り変わり



※グラフの人数はスタイルアリーナの撮影で着用していた人数を調べて算出したもの。



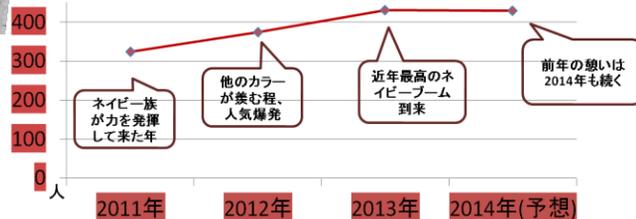
3位

ネイビーブルー

近年、秋冬になると必ず増加する「ネイビー族」。ストリートファッションから絶大な支持を得ているのだが、もはやそれを乗り越えて、「依存している」とまで言っていだろう。それ程、今季の着用率は凄まじかった。当サイトの秋冬カラーアンケート調査でも愛されカラーNO.1に選ばれている。



トレンドの移り変わり



※グラフの人数はスタイルアリーナの撮影で着用していた人数を調べて算出したもの。



4位

セットアップ

秋は男女共にセットアップが豊作で、ストリートファッションでも旬なスタイルとして注目を集めた。今までは好きな物を好きに組み合わせる“MIXスタイル”が主流だが、現在は同じ色、同じ柄などで統一感を出すスタイルが定着してきた。



この髪型にするとクラシカルな雰囲気強調することができて、プレッピーやアイビールックのトラディショナルなスタイルにもマッチシ。メガネとの相性も抜群で知的さが加わる。

5位

オシャレ七三

現在、若い男性の間でトレンドとなっていて一世風靡している髪型は「七三分け」。とは言うってもポマードなどできっちり分けた昭和風ではなく、平成の“オシャレ七三”は襟足やサイドを刈上げてオールバック風に前髪を立ち上げるのが主流。



セットアップ最大の魅力は、上下のアイテムそれぞれが、単体として活躍できること。他のアイテムと組み合わせることで着回しができるから、多様なファッションを楽しめる。



■ JFA 「style-arena」 Report 2013 AUTUMN

■ 2014年3月発行

■ 解説 企画事業部 情報発信事業
ディレクター 嶋田 有樹

■ 発行 一般財団法人日本ファッション協会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-5-1 神保町須賀ビル7F
Tel 03-3295-1311 Fax 03-3295-3295 Mail info@japanfashion.or.jp